

令和8年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

いまごうたなだしゅうらくきょうてい し が け ん こ う か し
今郷棚田集落協定（滋賀県甲賀市）



【今郷棚田米】



【かんぴょう作り体験】



【自然観察会の様子】

【概要】

1 むらづくりの動機・背景

今郷地区は、旧東海道の風情のある町並みと豊かな農村景観が現在に伝わる歴史的地区である。平成22年から地域の市民グループ「今郷好日会」が、旧東海道の町並み保存に取り組んでいる。

令和元年6月の「棚田地域振興法」の成立を契機に、令和3年2月に指定棚田地域の認定を受け、棚田の自然環境の保護と保全活動のため、「今郷棚田集落協定」を令和3年11月に設立し、古き良き棚田の景観を活用し関係人口の拡大を目指す取り組みが始まった。

2 むらづくりの内容

今郷棚田集落協定は、農地の地権者と農事組合法人いまごう営農で構成され、大学、NPO法人、企業、行政など外部機関と連携して、棚田を軸とした生態系保全やビオトープ整備で自然環境を保護し、多様な生物が生息する環境を創出する活動を主とする持続可能な地域づくりを目指している。

また、「今郷棚田の自然を学び豊かな自然を守ろう」をテーマに、

- （1）県内の博物館などと連携した生態系保全活動や、ビオトープを整備し、自然観察会などを通じた環境教育の実施
- （2）立命館大学と連携し、今郷棚田米の商品開発「今郷棚田米5種食べ比べセットのパッケージデザイン作成」や、水口かんぴょうのレシピ考案など、地域ブランドの知名度向上
- （3）新規就農者の受け入れ支援や、都市住民との交流イベントを通じた地域コミュニティの強化による定住促進

などに取り組んでいる。

これにより、棚田や多様な希少種を育む農村景観の保全、コミュニティ活動の活性化が図られており、地域活性化に寄与している。

令和8年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

けはら たなだ 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト（きょうとふふくちやまし京都府福知山市）



【「毛原の棚田」全景】



【棚田 taikan ツアー】



【加工品製造の様子】

【概 要】

1 むらづくりの動機・背景

毛原地区は、約 600 枚の棚田景観と鬼伝説に代表される歴史文化が特徴の小集落で、人口減少と高齢化が深刻化するなか、平成初期から住民による話し合いを重ね、棚田の保全と都市住民との交流を軸としたむらづくりを展開してきた。

平成9年から「棚田 taikan ツアー」や平成10年から「棚田オーナー制度」を通じて集落内外の信頼と合意を醸成し、平成27年に毛原住民と村外村民からなる「毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト」を設立した。

2 むらづくりの内容

「毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト」が中心となり、行政や教育機関との連携で関係人口を拡大し、農業生産、加工品開発、ICT活用による生活環境整備、移住定住促進など多岐にわたる活動を展開している。

住民の価値観を示す毛原住民憲章を制定し、「1000年つづく里づくり」をビジョンに、
（1）棚田オーナー制度や棚田 taikan ツアーを長年継続し、棚田保全と都市農村交流の両立

（2）クラウドファンディングにより食品加工所「けらり毛楽里」を整備し、加工品開発や販売に取り組み、女性の活躍の場と収益機会を創出

（3）デジタル地域通貨「けーら」を導入することで、住民やサポーターの活動を促進し、集落内外の支え合いの仕組みづくり

（4）全世帯へのスマートスピーカー導入やICT活用により、見守りや情報共有の充実を図るとともに、縁側喫茶や交流活動を通じてコミュニティの維持・活性化などに取り組んでいる。

これにより、共助・協働ネットワークで住民の困りごとを解決し、毛原ファンから移住定住へ橋渡しする仕組みを構築するなど、地域活性化と持続可能なむらづくりに寄与している。